

4/17. 7月分.

私達の夢は日本で一番お客様から感謝される

数の多い会計事務所にあることです。

1. 夢という言葉で思い出すのは、シカゴに上場したセントラルサービスシステムの創業者である故野口卓社長の事です。野口社長は51歳という若さで亡くなりましたが、何故上場するのかという語で「働いている人はプライドを持ってもぶうため」と語をしていました。セントラルさんの仕事は皿洗いの請負い業です。現場で働いてくれている人達にプライドを持ってもぶうためネーミングをしました。彼らのことを「スチワード」と名付けました。イギリスの貴族がパーティを開くときに、そのパーティを取りしきる責任者のことを言うそうです。見事なネーミングと経営者の社員に対する思いやりが感じられます。
2. 6月号で「何者か」というタイトルで書かせて頂きましたが、私の趣旨は働いてくれている人達が自分の仕事にプライドを持ってネーミングを会社、個人が考えてみてはどうかということです。静岡のたご満さんは名刺に「わたしの信条」も書いています。店長の杉山弥生さんは「明るく笑顔で前向きに」と書いてありました。いよいよ古田土会計も7月から新しい名刺になります。新しい自分にチャレンジします。
3. 私は、よく経営計画書に夢と希望をいう字を書きましたが、夢がなにかは書きませんでした。「私達の夢は日本で一番お客様から感謝される数の多い会計事務所にあることです。」

そのためには、社員の数が多くなりこの夢は実現しません。ですが「これが」も社員は増やし続けます。そしてその社員の質が高くないとお客様から「あなたと知り会えてよかったありがとう」とは言われません。人間性が高くないと人から感謝されません。会社の目指す価値と個人の価値感の共有なくしては不可能であると思います。このペクトルを合めせるものが経営理念です。経営理念を全社員が共有し徹底することによって、人間性の高い社員が育つのではないのでしょうか。経営計画書は理念を徹底する最高の動員であり、教科書です。こんな素晴らしい動員を使わないのはもったいないことです。

4. 7月分では、小山道夫さんがの子紙を添付します。小山さんは、ベトナムのフエ市でストリートチルドレンを集めて子供の家を作り、10年以上もボランティア活動している立派な日本人です。しかし、ボランティア活動をしている人の生活や老後の保障は何もありません。小山さんがの子紙を全社員が読み、私達古田土会計の全社員は、小山さんの生活と老後の保障のために毎月寄付をさせて頂くことにしました。私は社員に出来るだけ多く寄付してもいいかと思っています。喜捨をするれば、寄付をした本人が幸せになるかです。大きな欲を持って人生を生きるとは、大きな器の人間になってほしい。そのためには、損得のないお金をどれだけ人様のために使えるかではないでしょうか。小山さんの手紙を紹介するが迷いましたが、こういう現実を知ってほしいとのせました。古田土 満